

2011



会津大学

THE UNIVERSITY OF AIZU

産学イノベーションセンター

University-Business Innovation Center

NEWS VOL.9



(目次)

- | | | |
|---|------------------------|-----|
| 1 | 産学イノベーションセンター(UBIC)の概要 | P 1 |
| 2 | 組織体制及び職員の紹介 | P 2 |
| 3 | UBIC活動の紹介 | P 3 |
| 4 | 共同研究、受託研究及び奨学寄附金について | P 6 |
| 5 | UBICスタッフの活動日誌 | P 7 |
| 6 | 会津大学の知的財産 | P11 |
| 7 | UBICのご利用案内 | P13 |

産学イノベーションセンター(UBIC)の概要

会津大学産学イノベーションセンター(UBIC)は、地域や企業に開かれた産学官連携の総合窓口として、企業や起業家からの技術相談や経営相談等に応じ、会津大学教員とのコーディネートを行っています。

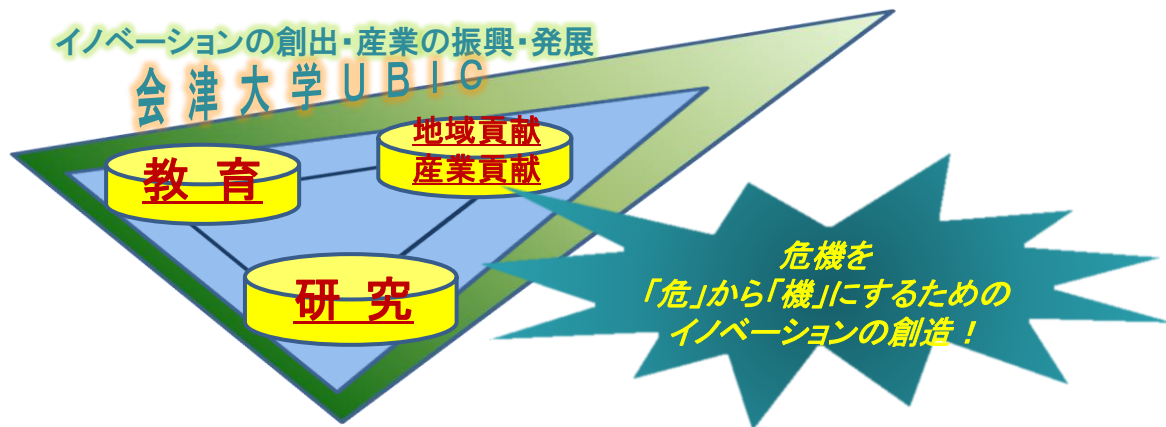
また、会津大学教員の研究内容の紹介や共同研究、各種補助金に関する情報や起業化のための情報等の発信、そして産学連携フォーラムや起業家の支援、経営者育成のためのセミナー等を開催することにより、産学官連携を推進しています。

さらに、研究開発室及び先端システムの有料開放、各種技術セミナーの開催等により、産業の支援に取り組んでいます。

1 イノベーションの創出

会津大学は、“to Advance Knowledge for Humanity” 「人類の平和と繁栄に貢献する発明と発見の探求」をモットーに研究と教育を基盤に地域社会、産業振興への貢献を目指しています。

UBICでは、本学の研究や教育の成果を産業界にフィードバックし、大学と産業界、地域を繋ぐ窓口としてイノベーション創出、産業の活性化・発展への寄与、地域社会との協業を行っています。



また、UBICは、研究成果や人材育成を通じての活動はもとより、国内外の大学、研究機関へのネットワークを提供することにより、一大学の枠を超えた産学官連携の“ゲートウェイ”の役割を担います。

是非、本学の研究、教育、国際ネットワークをご活用ください。

2 企業支援

■研究開発

- ・会津大学教員との共同研究を支援する施設として研究開発室を5室用意しています。
- ・CG制作機器、サウンド制作機器、運動解析ルーム等、先端的な設備を低料金で利用できます。
- ・スクリーンを活かした講習会やプレゼンテーションの開催、CGやサウンドの製作、加工、編集、人体の動きのCG化等に利用できます。

■講習会

- ・新たなビジネス展開と地域産業の振興を支援するため、ITに関する各種講習会・セミナーの開催及び開催の支援を行います。

■見学・体験

- ・インターネットや3D立体映像など無料で体験できます。
- ・センターの設備の一般見学の受け入れを行います。

3 産学官連携の推進

■研究成果の紹介

- ・産学官連携に結びつく産学連携フォーラムを実施しています。
- ・各種フェア・イベントに出展しています。

■研究成果の展示

- ・会津大学教員の研究成果や会津大学発ベンチャー企業の取組成果、デモを展示しています。

■相談業務

- ・相談窓口を開設し、企業や起業家からの技術相談や経営相談等に対応しています。

■共同研究・受託研究等の推進

- ・産学官連携コーディネーターを配置し、共同研究・受託研究等に結びつくコーディネート活動を行っています。

■外部資金の導入

- ・国庫等を活用した産学官連携推進事業に取り組んでいます。

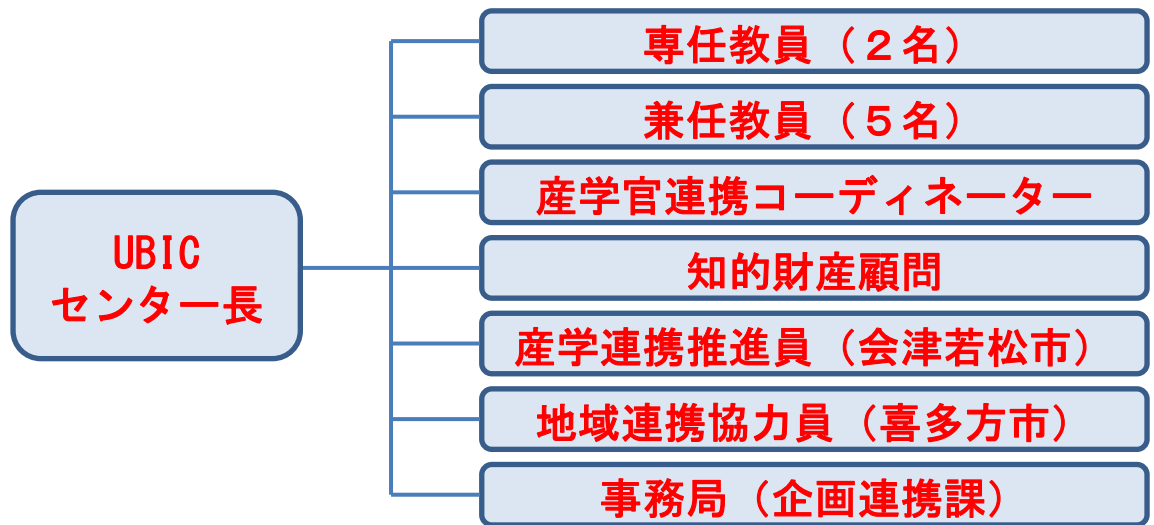
■人材育成

- ・起業家支援や経営者育成のビジネスセミナーを支援しています。

■知的財産管理

- ・知的財産啓発のため、知的財産セミナーを開催しています。
- ・先行技術調査のため、科学技術文献情報や特許情報を収集しています。
- ・会津大学教員の研究成果の権利化を図り、積極的な技術移転を推進しています。

組織体制及び職員紹介



UBICセンター長
岩瀬 次郎



UBIC専任教員
准教授 甘泉 瑞応



UBIC専任教員
助教 渡辺 孝信



産学官連携
コーディネーター
特任教授 本杉 常治



知的財産顧問
重田 暁彦

UBIC活動の紹介 1

会津大学では、ITを活用した独創性や新規性の高い研究だけではなく、実用性を考慮した企業からのニーズに応える共同研究も行っています。

■Ran's Night 【就寝中に計測!装着式衣服内温度計】

＜陳 文西 上級准教授 ・ キューオーエル株式会社＞

Ran's Nightとは、就寝時にパジャマに挟むだけで、内蔵された複数のセンサが、継続して衣服内の温度を計測できる商品です。

測定した結果は、ディスプレイで確認できます。また、計測したデータを1枚のQRコードにして、ユーザーが携帯電話で撮影し、瞬時にサーバへデータを送信することにより、長期にわたるデータの蓄積ができます。



■脳を鍛える「脳聴」CD

＜黄 捷 上級准教授 ・ 飯田電子設計株式会社＞

脳聴とは、音を用いて脳に刺激を与えることにより、脳の活性化をお手伝いをする商品です。

左右別々に出力された音声を聴き、脳内で瞬時に解析・理解させるトレーニングを行うことにより、右脳及び左脳が活性化され、記憶力に大きな関係のある前頭前野と言われる領域を鍛える商品です。



(「脳聴」シリーズ)

■ベンチャー体験工房「会津IT日新館」

大学発ベンチャー企業や地元自治体と連携し、地域ニーズに対応したテーマを持つベンチャー体験工房群を構成し、イノベーションに挑戦する精神と技術力を持つ創業意識の高い若手IT人材を育成しています。



基本コースの様子



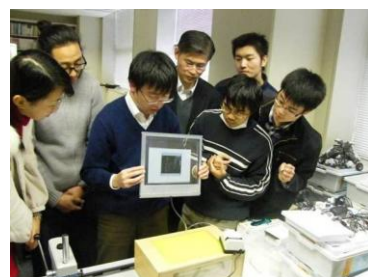
体験工房の様子

■アジア人財資金構想「国際IT日新館」

アジアからの留学生を、日本文化と地域（会津）文化及び日本企業風土に対する深い理解を持ち、地域社会へ貢献し、国際的にも通用する会津発のグローバルITリーダーとして育成するプログラムです。



プロジェクトマネジメント授業の様子



組み込みソフトウェア授業の様子

UBIC活動の紹介 2

■会津IT秋フォーラム2010

平成19年度より、最先端のIT技術を会津から発信する会津IT秋フォーラムを開催しています。このフォーラムは、ITに関わる企業人、研究者、学生が一同に集い、会津から全国へ向けて最先端のIT情報を発信するイベントです。基調講演や分科会(テーマ: IT応用、Webテクノロジー、地域・ベンチャー)での講演を通じて、最新IT技術に関する情報や動向について知ることができます。



大学発ベンチャー企業による
プレゼンテーション



基調講演
(JAXA 川口淳一郎氏)



特別講演
(Google社 及川卓也氏)

■会津大学ニューテクノロジーセミナー

UBICでは、協定金融機関と連携し、本学の教員を発明者とする特許技術を紹介する「ニューテクノロジーセミナー」を開催しています。企業の皆さまに本学の保有する特許を紹介するとともに、ビジネスパートナーを発掘し、技術移転を促進することを目的としています。

セミナーでは、発明者本人が新技術の内容と実用化の可能性について説明します。また、セミナー後は、発明者に直接相談することもできます。



宮崎教授による
プレゼンテーション



岡教授による
プレゼンテーション



来場者への技術シーズ紹介

■会津大学新技術説明会

東京都市ヶ谷のJSTホールにて、JST(独立行政法人科学技術振興機構)と共同で「会津大学新技術説明会」を開催し、会津大学の新技術を首都圏の企業に広く紹介しています。本学が開発したセキュリティやネットワーク関連のソフトウェア技術など、最先端のIT技術について担当教員が自ら説明し、実用化に向けた企業との連携を目指しています。



東原教授による
プレゼンテーション



会場の様子



黄上級准教授による
プレゼンテーション

■会津大学産学連携フォーラム

平成22年度は、福島県商工会連合会との共同企画で地域企業の皆様及び住民の方々を対象として、企業経営の向上、さらには地域経済の活性化を促すため、経営管理及び知的財産管理に役立つセミナーを開催しました。



知的財産顧問によるセミナー



外部講師によるセミナー

■会津産業ネットワークフォーラム(ANF)との「モーニングサロン」

平成22年度より、会津産業ネットワークフォーラム(ANF)と共同企画で、モーニングサロン(月1回)を本学で開催しています。モーニングサロンは、ANF会員企業のニーズと会津大学のシーズをお互いに理解し合うことで、産学官が連携していく仕組みづくりや、取組事例を継続していくことで、会津発のビジネスにつながるものとして育成していくことを目的としています。朝7時30分から会員企業及び会津大学教員による講演などを通じて情報交換を行っています。



成瀬准教授による
プレゼンテーション



朝食を交えての意見交換



学生による活動報告

■会津大学“雲”サロン

平成22年度より、会津大学発ベンチャー企業有志の方々との協業で、近隣地域のIT企業の方々を対象とした最新ITテクノロジーに関する情報交換の定期的な場として、会津大学“雲”サロン(月1回)を開催しています。

会津大学“雲”サロンでは、ITに関する話題だけでなく、外部資金の話題や最近の会津大学の動きなどについても取り上げています。



角山学長によるプレゼンテーション



大学発ベンチャー企業による
最新のITトレンドの紹介

共同研究、受託研究及び奨学寄附金について

■共同研究

外部機関の研究者・技術者と本学の教員が共通のテーマについて研究を行う制度です。本学の産学官連携コーディネーターが、コンピュータサイエンスを専門とする教員（約110名）から、共同研究のテーマに最適な教員を選定しますのでお気軽にご相談下さい。

なお、共同研究には、次の3つの形があります。

- 1 研究に要する経費を受け入れて、本学の研究者が共通の課題について共同で行う研究
- 2 共同研究員を受け入れて、本学の研究者が共通の課題について共同で行う研究
- 3 研究に要する経費と共同研究員を受け入れて、本学の研究者が共通の課題について共同で行う研究

■受託研究

企業などから受託を受けて行う研究制度です。これに要する経費は、委託者が負担することになります。

■奨学寄附金

教育及び学術研究の奨励に使用されることを目的に企業等から寄附金を受ける制度です。

会津大学における共同研究、受託研究及び奨学寄附金の受入れの推移（平成5年度～22年度）

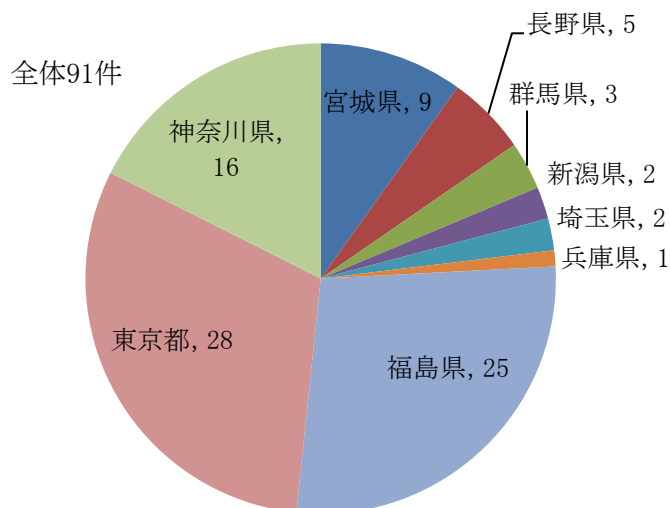
（単位：件、千円）

	平成5年度		平成6年度		平成7年度		平成8年度		平成9年度		平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	4	10,412	6	5,912	0	0	4	2,212	4	3,260	7	5,280	9	8,865	11	9,956	7	3,726	6	6,400	2	1,991
受託研究	1	1,300	2	1,815	3	3,330	3	19,486	3	26,543	1	13,449	3	27,809	6	39,542	5	23,048	9	41,645	9	37,718
奨学寄附金	6	8,900	7	16,840	12	7,275	11	6,430	11	7,022	7	5,590	7	5,620	4	2,200	13	20,070	20	20,380	21	7,050
合計	11	20,612	15	24,567	15	10,605	18	28,128	18	36,825	15	24,319	19	42,294	21	51,698	25	46,844	35	68,425	32	46,759

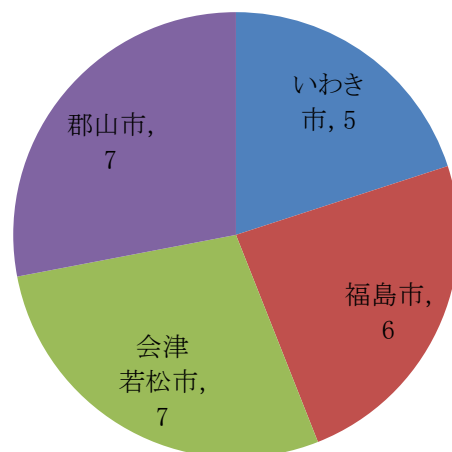
	平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	7	54,004	8	19,676	14	26,540	15	22,248	11	18,306	8	5,968	8	17,567
受託研究	8	31,301	5	9,950	7	11,294	12	24,914	8	25,067	9	40,692	10	38,663
奨学寄附金	11	10,300	4	4,800	8	9,500	4	6,410	6	6,800	1	1,000	5	16,250
合計	26	95,605	17	34,426	29	47,334	31	53,572	25	50,173	18	47,660	23	71,212

民間企業との共同研究、受託研究の件数（平成15年度～22年度の累積）

（単位：件）



福島県25件の内訳



『会津大学と地元企業との産学連携活動について』

産学官連携コーディネーター 本杉 常治

会津大学と地元との交流については先ず会津産学懇話会を取り上げなければなりません。これは会津地区経営者協会会員有志が会津大学を応援するために作ってくれたものです。たとえば学生が海外の学会で研究成果を発表するときの出張旅費を一部補填していただいています。今までに会津産学懇話会の援助をいただいて250名ほどの学生が国内外の学会で研究成果を発表し、学会から高い評価を得ています。

会津産学懇話会の普段の主な活動は毎月第一水曜日の朝7時半からの朝食会です。これは毎回講師をお招きし、食事の後、講師のお話を聞き勉強する会です。講師は会津大学の教員、あるいは外部から来ていただくこともあります。

朝食会の他には7月にサマーイブニングパーティが開かれます。これには大学教職員の家族も参加し、小さな子供向けのアトラクションがあったり、会津産学懇話会会員夫妻が会津大学教員夫妻と懇談したりなどの国際色豊かな楽しいパーティです。

1月には会津産学懇話会会員と会津大学幹部職員との新春パーティが開かれ、ここでも交流の輪を広げています。一部の教職員はこれらの行事にはほぼすべて参加し、地元の方々との交流を深めています。

次に紹介するのがANFと呼ばれる組織です。これは正式名を「会津産業ネットワークフォーラム」といい、平成20年9月に会津若松市が作った組織です。会員は会津地域17市町村のもの作り企業が主で会津大学発ベンチャー企業も会員に名を連ねています。今までに中国、韓国、ベトナム、インドからの留学生をはじめ11名の学生をインターンシップとして会員企業に受け入れていただきました。

昨年4月からは、会津大学を会場にモーニングサロンが開催されています。これは会員企業と会津大学教員とが朝食を共にしながら技術交流を行う場で、互いに情報交換をする中から新規事業プロジェクトの誕生を狙ったものです。会員企業からの問題提起あるいは教員の研究シーズ発表がきっかけとなって企業と個々の教員との間で新しいプロジェクトが誕生しつつあります。

また、教員の研究に会津大学にはない測定器が必要だった時、ANFの尽力でハイテクプラザの測定器を借用して研究が進展した、という事例もあります。

会津大学は地元自治体、金融機関と産学連携協定を結んでいます。会津若松市、喜多方市からは各1名産学連携推進員、地域連携協力員として、非常勤で会津大学の産学官連携事業を推進するために協力いただいています。金融機関は締結順に商工組合中央金庫福島支店、東邦銀行、日本政策金融公庫会津若松支店、大東銀行、会津信用金庫で、これらの各支店に会津大学の研究内容を分かりやすくまとめた会津大学シーズ集を置いて支店を訪れた顧客への情報発信を行っています。

この結果、各金融機関からの顧客が会津大学に技術相談を求めて来て、これが技術支援に発展したり、会津大学から技術相談のために企業訪問した事例があります。

昨年12月、会津大学は郡山で大学が保有する特許を企業の皆様に知ってもらうため、ニューテクノロジーセミナーを開催しました。このとき、協定金融機関の皆様にはセミナーの宣伝、集客で協力いただきました。その結果、セミナーには100名を超える方々に参加いただき、盛況に終わりました。

また、協定金融機関の中には会津大学の産学連携について講演する機会を作っていただいたところもあります。これら金融機関とは今後も連携を強化し、産学連携活動を促進して行きたいと考えています。

共同研究に関しては、福島県内の企業との実績は過去7年間に25件あり、その内訳は、会津若松市7件、郡山市7件、福島市6件、いわき市5件です。各企業ではこれらの共同研究の結果を新事業に活かしています。

私が産学官連携コーディネーターとして会津大学に着任してから8年が経過しました。産学官連携コーディネーターとして会津大学に赴任することが決まった時、次のような事で悩んだのを覚えています。

産学連携とは大学の地域貢献であり、産学官連携コーディネーターは大学と地域とをつなぐパイプ役です。会津大学の専門はソフトウェアに代表されるコンピュータ理工学ですが、会津の地場産業は漆、お酒、味噌、醤油と焼き物です。果たしてソフトウェアと会津の地場産業とをどのように結びつけるのか、と悩んだものでした。

会津大学に着任した翌日、大学の隣にある福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センターで漆組合の理事会が開かれ、私はそこに会津大学の研究成果を紹介するために参加しました。研究成果はスロバキアにお帰りになったデュルコビッチ先生のもので、漆塗りの光沢をコンピュータグラフィックスで再現したものです。すなわち、容器に漆で描いた金色の模様が、漆容器を傾けて見ると赤くなったり金色になったりするのが見事に再現されていました。漆組合の人はこれをご覧になって、「プロモーションに使えるな。」とおっしゃっていました。私は、こんな所にソフトウェアと漆との接点があるのだ、と自信を得たのを覚えています。

さて、着任当時は数えるほどでしたが現在では会津大学周辺に会津大学発ベンチャー企業が20社近く集積するに至っております。

これからも、会津の伝統産業、製造業、新興のソフトウェア産業はじめ地元の方々に少しでも貢献できれば、と考えています。

(コーディネート活動の様子)



東京でのJSTとの新技術説明会での
プレゼンテーション



京都での科学・技術フェスタへの出展

UBICスタッフの活動日誌 2

『会津の絆から新しいビジネスの萌芽を！』

UBIC専任教員 准教授 甘泉 瑞応

イノベーションによる付加価値の高い新商品や新サービスを開発し、新しい市場と仕組みを効果的に創造していくためには、大学と地域の産業界、行政の皆様とが密接に連携していくことが必要です。UBICでは、平成22年度より、地域の産業界と連携した「会津大学“雲”サロン」と「ANFモーニングサロン」という2つのサロンを新たな試みとして開始しました。

「会津大学“雲”サロン」では、月に1回、大学発ベンチャー企業の有志らと連携し、ベンチャー企業と地域との情報交換、交流の場、新しいIT技術の情報共有の場として活用しています。

「ANFモーニングサロン」では、地域のものづくり企業や会津地域の行政機関と連携して、会津大学の持つシーズを企業や地域のニーズと結びつけ、地域発の新しいビジネスを創造するための様々なビジネス企画を議論しています。これらの活動に関心のある方は是非ご参加ください。

また、UBICでは学生の起業家精神を涵養し、次世代のITベンチャーの創出や産業人材を育成するため、2つの「IT日新館」（「ベンチャー体験工房『会津IT日新館』」及び「国際IT日新館（アジア人財資金構想）」）による教育活動を行っています。この2つの「IT日新館」では、ITベンチャー企業が必要とする人材を発掘し、起業家精神を涵養し、地域性を考慮した実践的な産業人材やベンチャー企業を育成していくことにより、新たな地域産業に成長させていきます。

平成22年度において、「会津IT日新館」では「福島県中小企業家同友会会津地区」と連携して、「第1回あいづ農商工観学フェアからDO AIZU 元気に発振!!『第1回会津にこんなビジネスあったらいいな』」ビジネスコンテストを開催しました。205件にもおよぶ学生からの応募があり、最優秀賞に輝いた作品は、中小企業家同友会のメンバー企業の方たちのご協力を得て商品化される予定です。

「国際IT日新館」では、平成23年度は新たな自立化のステージを迎えます。

さらに、UBICでは、平成23年度新規事業として大学発ベンチャー企業と共にIT人材の育成も行っていきます。

私たちUBICは、大学と地域や地域産業界とを結び、様々な交流の役割を担いながらwin-winの関係を継続的に構築する架け橋的な役割を担うよう、皆様と共にがんばっていきます。



(第1回あいづ農商工観学フェア ビジネスコンテストの様子)

『会津ベンチャー企業の動向について』

UBIC専任教員 助教 渡辺 孝信

リーマンショック以降、不況の影響等により大学発ベンチャー企業の経営者から「仕事が減った」と嘆く声が聞こえてくる時期もありましたが、スマートフォンの爆発的な普及などによりIT業界に明るい兆しを感じられます。今回は、UBICでの活動を通じて感じた「大学発ベンチャー企業における三つの変化」とUBICによる「大学発ベンチャー企業への支援活動」についてご紹介いたします。

一つ目の変化は、スマートフォンアプリケーションを開発する企業が増え、会津地域にスマートフォンを中心としたクラスターができつつあることです。従来のi-modeのようなクローズな市場と異なり、スマートフォンアプリはグローバルでオープンな市場であるため、会津地域からアプリケーションを世界配信することができます。したがって、アイデアと技術力さえあれば大企業に太刀打ちでき、このことは技術力のある大学発ベンチャー企業にとって追い風となっています。

二つ目の変化は、ベンチャー企業同士が協力し、それぞれが有するIT技術等のノウハウを共有する動きが出ています。その背景には、次々と新しい技術が生み出されるIT業界において、自社だけでは時代の変化に追いつくのが厳しく、お互いに協力していこうと考える企業が増えています。

三つ目の変化は、(株)あくしゅ(2006年設立)、CircRats(2010年設立)、(株)萌店インフォ(2008年設立)などのそれぞれに特徴のある技術を持った会津大学卒業生による起業及び活動が目立ってきていることです。

上記の3つの変化を踏まえ、UBICでは大学発ベンチャー企業と連携して、最新のITテクノロジーに関する情報交換の場「会津大学“雲”サロン」を月1回のペースで開催しております。こうした場を通じて、会津大学の教員と大学発ベンチャー企業による技術の融合により、これまでにない新技術が生み出されることを期待しています。

UBICでは、大学発ベンチャー企業が世界に羽ばたく企業に成長することを期待しつつ、支援活動を継続していきます。



会津大学“雲”サロンの様子



会津IT日新館での授業風景

会津大学の知的財産（出願特許・意匠）

1 特 許

平成23年3月18日現在
審査請求済みのもののみ掲載。

<国内分>

出願番号	発明の名称	特許登録番号	備考
特願2003-279445	ネットワークを介したホスト間の通信方法	特許第3905067号	共同出願：(株)ニセンエックス
特願2003-432771	立体形状物の生成方法	特許第4675042号	
特願2004-050349	カテーテル検査シミュレーションシステム	特許第4681242号	
特願2004-067762	生体情報処理システム	特許第4633373号	
特願2004-067782	生体センサ装置	特許第4633374号	
特願2004-086903	インターフェース提示方法及びインターフェース提示システム	特許第4546125号	
特願2004-155109	カメラ制御装置	特許第4593172号	
特願2004-255617	身体状態監視装置	特許第4592360号	
特願2004-283213	学習支援システム及び学習支援方法	特許第4579634号	
特願2004-302035	心電図測定装置及び心電図測定システム	(H23. 3. 8特許査定)	
特願2005-056804	自己説明型プログラム、プログラム改変方法、改変管理方法およびコンピュータ処理方法		
特願2005-094651	瞬時装着型電極装置	特許第4671406号	
特願2005-204020	自動支援システムおよび自動支援方法		
特願2005-291717	呼吸心拍監視装置		
特願2006-005599	対象物のタグ情報と位置情報とを特定するための無線ICタグ用タグ情報読み書きシステム		
特願2006-034343	多変数決定木構築システム、多変数決定木構築方法および多変数決定木を構築するためのプログラム		
特願2006-034344	多変数テスト関数生成装置、多変数テスト関数生成システム、多変数テスト関数生成方法および多変数テスト関数を生成するためのプログラム		
特願2006-040521	メディア隠蔽装置		
特願2006-075524	音像定位装置及び音像定位方法	(H23. 2. 1特許査定)	共同出願：(株)タムラ製作所
特願2006-075525	音像定位装置及び音像定位方法		共同出願：(株)タムラ製作所
特願2006-337242	利用人数算出システム、利用人数算出方法および利用人数算出用プログラム		
特願2007-114211	月経周期推定装置および月経周期推定方法		
特願2008-071982	マルチメディア会議システム、アプリケーションサーバ、混合パターン決定方法および混合パターン決定用プログラム		
特願2008-075279	ワンタイムパスワード認証システム、ワンタイムパスワード認証方法、ワンタイムパスワード生成プログラム、ワンタイムパスワード認証プログラムおよびワンタイムパスワード生成装置		

平成23年3月18日現在
登録済みのもののみ掲載。

<国外分>

出願番号	発明の名称	特許登録番号	備考
特願11/135,652	CAMERA CONTROLLER	US7,675,542/B2	米国
特願 200510073443.3	可回転可変焦撮像機 的控制装置	ZL 2005 1 0073443.4	中国

2 意 匠

平成23年3月18日現在

出願番号	意匠	意匠登録番号
意願2009-012756	置 物 「張」	登録第1381976号
意願2009-012757	置 物 「福」	登録第1381977号
意願2009-012758	置 物 「金」	登録第1381978号
意願2009-012759	置 物 「寿」	登録第1381979号
意願2009-012760	置 物 「囍」	登録第1381980号
意願2010-008826	装身具 「黄」	登録第1407371号
意願2010-008827	装身具 「呉」	登録第1407372号
意願2010-008828	装身具 「馬」	登録第1407373号
意願2010-008829	装身具 「何」	登録第1407374号
意願2010-008830	装身具 「温」	登録第1407375号
意願2010-008831	装身具 「壽」	登録第1407376号
意願2010-008832	装身具 「高」	登録第1407377号
意願2010-008833	装身具 「陳」	登録第1407378号
意願2010-008834	装身具 「王」	登録第1407379号
意願2010-008835	置 物 「黄」	(H23.2.8登録査定)
意願2010-008836	置 物 「呉」	(H23.2.8登録査定)
意願2010-008837	置 物 「馬」	(H23.2.8登録査定)
意願2010-008838	置 物 「何」	(H23.2.8登録査定)
意願2010-008839	置 物 「温」	(H23.2.8登録査定)
意願2010-008840	置 物 「壽」	(H23.2.8登録査定)
意願2010-008841	置 物 「高」	(H23.2.8登録査定)
意願2010-008842	置 物 「陳」	(H23.2.8登録査定)
意願2010-008843	置 物 「王」	(H23.2.8登録査定)

UBICのご利用案内

研究開発・研修・プレゼンテーションの場としてもご利用いただけます。

- 開館時間 午前8時30分～午後5時
- 休館日 土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始
- 申込方法 事前申込制。使用する施設・システムの空き状況について、電話、e-mail等によりお問い合わせください。申請書の様式はUBICホームページからダウンロードできます。

1 3Dシアター

使用料 21,000円/1回

高輝度高精細液晶プロジェクタ、200インチスクリーン及び10台のスピーカーを使った映画鑑賞やセミナーの開催、その他プレゼンテーションの場としてご利用いただけます。また、立体映像と立体音響効果による会津大学教員の研究成果紹介も行っています。(50人程度入場可能。)



2 セミナールーム

使用料 21,000円/1回

20台のパソコンと50インチ・プラズマディスプレイ3台により、インターネット・プログラミング・CG・ホームページ作成・イントラネット・MS Office等の各種講習会を開催できます。また、センター主催の講習会も開催しています。



3 サウンドクリエーションルーム 使用料 1,050円/1回

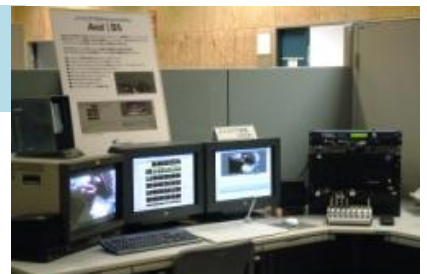
コンピュータを使って作曲、録音、編集ができ、作品をサウンドファイルやDAT、CD-Rに保存できます。マルチメディア・コンテンツに必要な音響を制作したり、オリジナルCDを作成することができます。



4 オーサリングルーム

使用料 270円/1システム1時間

3DCG制作、2DCG制作、ノンリニア編集、DVDオーサリング、アニメーション制作、DV編集、モーションキャプチャデータの3DCG化が可能です。



5 運動解析ルーム

使用料 15,750円/1回

人間の動きをコンピュータにデータとして取り込むことができ、スポーツ技術の向上やリハビリ器具の開発、伝統芸能の保存などにご利用いただけます。また、オーサリングルームにてモーションキャプチャデータの3DCG化ができますので、リアルな動きをつけたアニメーション等の制作もできます。



6 研究開発室

産学連携の拠点として、研究開発室が5室（うち2室は分割スペース）用意されています。コンピュータソフトウェア又はハードウェアに関する研究開発を行う福島県内外の企業、各種団体、個人、または大学発ベンチャーが、充実した環境の中で、研究開発を行うことができます。※各部屋には、机・電気・水道・ネットワーク、内線電話等が完備されています。

- ・研究開発室 面積：24㎡ 使用料 420,000円/1室1年
- ・分割スペース 面積：8.2㎡ 使用料 210,000円/1室1年



7 体験コーナー

使用料 無料

インターネットが利用できるパソコンを4台設置しています。また、会津大学発ベンチャー企業の技術を紹介する展示も行っています。



8 エントランスホール

使用料 無料

技術相談や共同研究の打合せ、あるいは情報交換や休憩等にご利用いただけます。ビジネス書を中心とした約300冊の蔵書を自由に閲覧することのできるスペース（会津IT日新館ライブラリー）があります。



UBIC INFORMATION

■産学イノベーションセンター講習会

UBICでは、産業の振興、学術文化の向上など、会津大学がめざす地域活性化への貢献策の一環として、マルチメディア・コンテンツの制作・編集等のための講習会を開催しています。※平成23年度開催分の詳細につきましては、決まり次第、HP等で随時お知らせします。

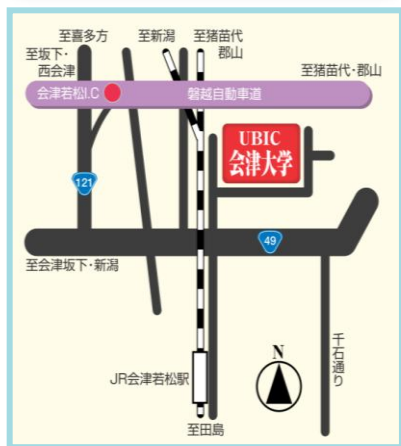
■メーリングリストの登録

UBIC各種講習会への参加・応募を希望される方は、住所・氏名・電話番号・e-mailアドレスを明記のうえ、FAX、e-mail等で御連絡ください。メーリングリストに登録のうえ、詳細情報が決まり次第ご案内いたします。なお、メーリングリストへはUBICホームページからも登録できます。

■会津大学シーズ集

UBICでは、本学と産業界等との連携をより一層推進していくため、本学研究者の研究内容を広く一般に紹介するシーズ集を作成しています。産学イノベーションセンターホームページへアクセスしてご覧ください。

A C C E S S



会津大学産学イノベーションセンター (UBIC)



平成23年（2011年）3月31日発行

会津大学産学イノベーションセンター(UBIC)

〒965-8580 福島県会津若松市一箕町大字鶴賀字上居合90

TEL:0242-37-2776 FAX:0242-37-2778

E-MAIL:ubic-adm@ubic-u-aizu.jp

ホームページ: <http://www.ubic-u-aizu.jp/>